

JCI-TC101A

「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会」

第1回 全体会議 議事録

議事録担当:松林

■日 時: 2010年6月17日(木) 15:00~17:00

■場 所: JCI 11F 第5会議室

■出席者: 二羽委員長, 安田副委員長, 堤幹事長

(幹事)岩波, 湯浅

(委員)横沢, 斉藤, 吉田, 谷村, 小川, 浅野, 松林

(事務局)福林

以上13名(敬称略)

■資料:

1-0 JCI-TC101A「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会」第1回全体会議 議事次第

1-1 JCI-TC101A「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会」活動方針(案)

1-2 JCI-TC101A「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会」委員名簿(案)

■議事:

1. 委員長挨拶(二羽委員長)

2. 各委員自己紹介および委員名簿記載内容の確認

➢ 資料1-2, 湯浅先生の所在地に誤りあり。

3. 委員会設立趣旨, 活動方針説明

資料1-1に基づき, 下記の4項目について説明があった。(堤幹事長)

- ・委員会設置背景と活動目標
- ・活動方針
- ・構成部会
- ・活動頻度

➢ 1年目の活動としては, 劣化の程度を特に限定することなく活動を行う。

➢ 委員会活動の一環として, 非/微破壊検査についての専門家による講演や現場視察も行っていく。

➢ 対象は土木・建築構造物である。

➢ 全体委員会は年3回程度とする。各部会については主査の判断のもと適宜行う。

➢ 構成部会は以下の4部会とするが, 1年目は①~③の活動を主とする。

- ① 耐久性に関する取り組みの推移部会
- ② 非/微破壊検査技術の現状と課題整理部会
- ③ 補修・補強の現状調査と課題整理部会
- ④ 本委員会活動提案部会

4. 各部会の主査, 副査, 委員決定

各委員が希望した部会は以下のとおり。

- ① 耐久性に関する取り組みの推移部会(主査:田村先生, 副査:斉藤先生)
横沢氏, 浅野氏
- ② 非/微破壊検査技術の現状と課題整理部会(主査:鎌田先生, 副査:湯浅先生)
吉田氏, 小川氏
- ③ 補修・補強の現状調査と課題整理部会(主査:岩波氏, 副査:濱崎氏)
横沢氏(①と兼務), 谷村氏, 松林

- 委員長, 副委員長および幹事長は特定の部会には属さないこととする。
- 主査・副査でなく, かつ欠席した委員(岡本先生, 森濱氏, 下村先生, 小林氏)については, 幹事長が各部会へ振り分けて連絡する。

5. 活動方針についての自由討議

耐久性評価の現状および今後の見通しについてコメントがあった。

- 劣化が顕在化したものを事後保全するケースが多く, その検査メニューや補修・補強方法もパターンが決まっ
ていて, 合理的な対策を提案しにくい現状がある。また, 対策は経験に基づいて選定されることが多く,
定量的な評価手法は参考程度に使われている状況だと認識している。(斉藤先生)
- 電力施設では, マニュアルにより変状レベルとその対策が示されているが, 構造物の性能に基づいた評
価までには至っていないのが現状である。管理基準は, 施設によって必要とされる性能が異なるため, 各
施設に適したものを定めれば良いが, 性能の低下と管理基準値を結びつけることが必要。(堤幹事長)
- 港湾施設では, 設計段階では性能照査を行う流れとなっているが, 維持管理段階になると性能の定量評
価が十分になされていないのが現状。施設には, 安全性の他にも使用性, 修復性, 美観等が求められるが,
健全性という言葉でまとめられているところがある。(岩波氏)
- 鉄道施設では, 対象とする構造により異なるが, 第三者被害と関係があるコンクリートの剥落が目される
ことが多い。実際に補修されているものの中には劣化期に入っているものも一部ある。また, 既に補修が行
われた箇所について再度補修が必要となっている場合もあり, 補修の仕方も影響している。(谷村氏)
- 建築では, 点検, 耐震診断などの手法は整っているが, 昔ながらの手法しか採用しない現状があり, 目的
に対して合致した点検手法となっているか疑問である。目的に対して合致した点検手法を採用していける
ような流れをつくることが望まれる。(湯浅先生)
- 検査により点で得られた情報を面的に評価する方法の確立も課題。逆に評価の観点からどのような検査
手法が必要かを示すことも必要と思われる。(斉藤先生)
- 施設が売り買いされる建築構造物の場合, 好ましくない評価は施設の価格低下につながるため, 結果を
オープンにしにくい現状がある。(湯浅先生)
- 新設構造物か既設構造物どちらを対象とするかにより, 適用できる検査方法は異なる。例えば, 試験方法
の中には新設時の情報がないと適用できないものも多数存在する。(湯浅先生)
- 今後はストック型社会となるため, 既設構造物が主たるターゲットになる。(横沢氏)

6. 微破壊検査についての講演

講演タイトル:小径コアによる試験・調査技術の説明

講演者:前田建設工業(株) 技術研究所 技術開発土木グループ 主管研究員 佐藤文則氏

7. その他

次回全体会議の予定

日時:2010年10月18日(月)15:00～

以上